

第1回南地区学校運営協議会 グループ協議記録

Aグループ	<p>①「地域が学校に期待すること、学校が地域に期待すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域として学校に協力したいという思いはあるが、学校が何を必要としているのか、どのようなことに困っているのかが分かりにくい。教職員や生徒の思いや要望を聞く機会があれば、より具体的な支援につながるのではないかと。今後、学校の意見や要望を地域に発信してほしい。また、生徒の声を直接聞く機会があるとよい。 ・廃品回収が実施されなくなった理由について質問があった。 →教職員数の減少や運営に関わる人員不足、休日に大会等が重なることが多いことなどから、生徒の参加が難しくなり、継続が困難となった。 ・PTAによるベルマーク活動も現在は実施していない。一方で、オレンジカフェ（認知症カフェ）ではベルマークの集計活動を行っており、地域の交流や支え合いの輪を広げる取組につながっている。 ・フリーマーケットを開催し、その収益を子どもたちの活動資金として活用できないかという意見があった。 ・廃品回収やベルマーク活動など、学校だけでは継続が難しくなった活動について、地域に協力を呼び掛け、地域主体で支援・運営することが可能か検討してはどうかという意見が出された。
Bグループ	<p>①「地域が学校に期待すること、学校が地域に期待すること」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も実施した学習ボランティア事業は、学校としてとてもありがたかった。今後も継続していきたい。 ・SNSに関わるトラブルが多く、地域のかも借り、学校・家庭と連携して子ども達の安全な居場所を作りたい。 <p>②「学校運営協議会として取り組むこと」</p> <p>SNSとの付き合い方を学ぶ機会を、子どもたちだけではなく、保護者や地域に方にも提供できるとよい。 〈具体的に〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSの制限のかけ方はどうしたらよいのか。 ・家庭でのルールをどうしたらよいのか。（地域においてもルールは必要ではないか。） ・自分自身の管理能力をつけていくにはどうしたらよいのか。 →といったところを一緒に考えていけたらよいのではないだろうか。 <p>③「その他」</p> <p>昨年度も話されていた「不登校児童生徒」の居場所（活動場所）を地域で作ることはできないか。→小中学生の放課後の居場所が変化してきている（スマホの普及の影響もあるのでは）→不登校児童生徒だけではなく、放課後や休日の居場所づくりも必要かもしれない。しかし、居場所づくりと同時に、活用する際のルール作りやルールを守る力が必要になる →その力を学校でつけてほしいし、地域や保護者の見守りが必要ではないか。</p>
Cグループ	<p>①「地域が学校に期待すること」</p> <p>○「人の話を聴くこと（内容を理解して自分で考える。そうでなければ、主体性が身につかない。）」 ※しかし、現状は 「防犯上、知らない人とはしゃべらないなど、地域との関係が希薄である」</p> <p>○地区Pを意識した学校からの発信や地域との連携を期待したい。 ※学校からの一方通行になりがち。児童・生徒による学校便りの配付をお願いしたいところだが、防犯上難しさがあるし、家庭によっては望んでいないところもある。</p> <p>②「学校が地域に期待すること」</p> <p>○学習支援やゲストティーチャーなどの外部人材の活用により、地域の人が見える。</p> <p>○帰宅後の学習が弱い。家庭での学びの支援が必要である。</p> <p>○タブレットの持ち帰りも有効活用されず、おもちゃになっている。（SNSなど）</p> <p>○少年団の活動が勉強する時間がないなどの理由で学習がないがしろになっている。</p> <p>☆稚内市で今年度から読解力に力を入れている。RSTなどを活用して、学力の向上を目指していきたい。</p>